

ステップ2

思わず本を手に取りたくなる魅

児童・生徒が通いたくなる、魅力的な学校図書館の実現に向けて、まずは書架の配置やレイアウトを見直してみましょう。日頃から、児童・生徒が学校図書館でどのように過ごしているのかを観察し、児童・生徒の視線の高さや、移動のしやすさなどに配慮したレイアウトを検討します。

レイアウトや配架を工夫して居心地のよい学校図書館へ

■知的障害特別支援学校の例■

学校図書館内は、元々、スペースに余裕はありましたが、児童・生徒にとって見やすく使いやすい学校図書館となるよう、レイアウトや配架を見直しました。児童・生徒に人気の高い大型絵本を増やし、主事さん手作りの棚に面出し（表紙が正面から見えるように配架する方法）で配架したり、クッションブロックコーナーの位置を書架の近くにしたりするなど、見やすく、居心地の良い空間づくりに努めました。その結果、日常的に本を借りに来る児童・生徒が増え、本の貸出冊数もアップしました。

Before



出前図書館で各教室に本をお届けします

■肢体不自由障害特別支援学校の例■

学校図書館に届いた新着図書や、季節の図書などをワゴンに乗せて各教室に届ける「出前図書館」の活動を行っています。出前図書館の案内や、図書の説明などの運営も児童・生徒が担当し、活動を通して、児童・生徒が自分で考えて話したり、友達の話の聞いたりする機会を大切にしています。

なかなか、学校図書館に行く機会が少ない児童・生徒にとっても自分の教室に居ながらにして様々な図書に触れる機会となり、出前図書館が来る日を心待ちにしています。

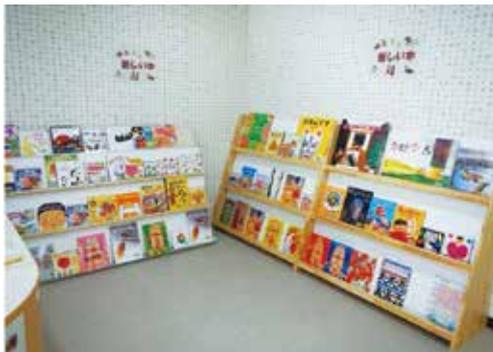


テーマに応じて手軽に本を入れ替えられるのも魅力の一つ。

力的な学校図書館づくり

また、学校図書館の室内に限らず、例えば、お勧めの図書をワゴンに乗せて教室まで運ぶなど、児童・生徒が本を見たり本に触れたりする機会が多くもてるような工夫も効果的です。取組例を参考に、校内で様々なアイデアを出し合い、魅力的な学校図書館づくりを進めていきましょう。

After



児童・生徒が読書をしている様子をヒントに、配架やレイアウトの見直しをしました。



みんな、出前図書館が来るのを楽しみにしています。

運営担当の児童・生徒は、友達にお勧めの図書を紹介します。回を重ねていくうちに、本の表紙を見せて、大きな声で紹介できるようになりました。



ステップ2

校内のスペースを活用した図書

ここでは、既存の学校図書館に加えて、児童・生徒がよく通る場所に図書コーナーを設置し、本への興味・関心を高めた例を紹介します。「学校図書館の位置が、教室から遠い」、「学校図書館が狭くて、本を読んだり貸し出したりするスペースが十分に確保できない」などの場合は、独立した

生徒が毎日通る玄関付近に図書コーナーを設置

■知的障害特別支援学校の例■

靴箱の反対側に書架を設置し、新着図書や、行事に関連する図書など、生徒の興味が高そうな図書を置くようにしました。場所柄、ちょっとした待ち時間などに、自ら進んで本を手にする様子も見受けられました。ここで本に興味をもち、その後、別の場所にある学校図書館にも通うようになるなど、本を読むきっかけとなるスペースとして、有効でした。



靴箱の上の壁面スペースを活用して…

廊下スペースに「よりみちライブラリー」

■肢体不自由教育部門*の例■

廊下スペースを活用して、車いすの児童・生徒が見やすく、手に取りやすい書架を設置しました。面出しすることにより、遠くからでも表紙が見え、普段手に取らないような本を選ぶ児童・生徒も多くいます。定期的に図書を入れ替えて、興味・関心を維持できるよう工夫しています。



図書の表紙が見える「面出し」

* 複数の教育部門を併置する特別支援学校の場

空間を利用して、複数の図書コーナーを設置

■肢体不自由教育部門の例■

網状の突っ張り棚を活用して、廊下や壁面部分に、複数の図書コーナーを設置しました。テーマごとに展示するなど、配架の工夫もしました。時期によっては、図書だけではなく、行事等の展示や掲示としても活用するなど、校内で共有できるスペースとして活用しています。



網の面に、フックを掛け、面出しで本を掲示。

コーナーづくり

学校図書館だけでなく、校内の様々なスペースの活用を検討してみましょう。その際、書架の設置場所や、設置方法など、安全面に十分に配慮することも重要です。



図書のリクエストカードと図書の
新着情報コーナーを設置。

靴箱の反対
側に書架を
配置



待ち時間に新着図書を読む生徒の姿も。

合は、該当の教育部門名を記載しています。



オープン型書架を車いすの児童・生徒
にとって手に取りやすい高さに設置



こちらは、紙芝居ステーション。
中身が見えやすいよう、透明の
袋に入れている。



展示しきれない図書
は、横のBOXに。

壁面には紙芝居。近
くにベンチも設置。



特別支援学校における選書の考え方

研究指定校の取組を参考に、特別支援学校における選書の考え方（試案）をまとめました。児童・生徒の実態や図書を扱う目的等と照らし合わせ、選書をする際の参考として御活用ください。

※都立図書館のホームページには、長年、子供たちに読み継がれている本や、集団の子供たちへの読み聞かせに向いている絵本を紹介した冊子が掲載されています。選書や読み聞かせの際に、参考にしてください（URLは、118ページ参照）。

特別支援学校における選書の考え方（試案）

1 読書能力の段階に応じた児童・生徒の実態例

前読書期	読書入門期	初歩読書期	多読期
<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせを聞く。 絵本をめくる。 本の絵を見る。 文字に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな本がある。 読んでほしいことを伝える。 かな文字を読める。 自分で読もうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな本を選ぶ。 自分で本を読む。 友達が読んでいる本が気になる。 本を読むのが楽しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 色々な本を読みたがる。 自分の好みの本を発見する。 文字をたくさん早く読めるようになる。

2 児童・生徒の実態を踏まえた選書の考え方（観点例）

選書の目的例	おおよその段階	選書の際の観点例
<ul style="list-style-type: none"> ■児童・生徒の興味・関心のあるテーマの図書 ■授業や行事と関連する図書 ■学習課題に関連する図書 ■生活年齢に応じた図書 	<p style="text-align: center;">前読書期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 絵が大きく、はっきりとした線で輪郭が描かれている図書 <input type="checkbox"/> 繰り返しのある展開の図書
	<p style="text-align: center;">読書入門期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 視覚聴覚、触覚、嗅覚等様々な感覚を活用できる図書 <input type="checkbox"/> リズミカルで、短い文章で表現されている図書（擬音語、擬態語など） <input type="checkbox"/> 身近な場面が描かれている図書 <input type="checkbox"/> 文字の分量が実態に応じた図書 <input type="checkbox"/> 児童・生徒にとって分かりやすいストーリーの図書 <input type="checkbox"/> 音が出て動きがある図書（デージー図書等） <input type="checkbox"/> 集団での読み聞かせ用の大型絵本
	<p style="text-align: center;">初期読書期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 鉄道や乗り物に関する図書 <input type="checkbox"/> 生物や食べ物、動物の図書 <input type="checkbox"/> テレビや映画で放映されているシリーズの図書 <input type="checkbox"/> 写真や図版が見やすく、児童・生徒の興味をひく図鑑 <input type="checkbox"/> 学校行事や学習に関連した図書
	<p style="text-align: center;">多読期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 遠足、社会見学、修学旅行、プール、買い物学習、調理など <input type="checkbox"/> オリンピック・パラリンピック教育に関する図書 <input type="checkbox"/> 主権者教育、消費者教育に関する図書 <input type="checkbox"/> 職業選択の参考になる図書 <input type="checkbox"/> 自己理解や障害理解に繋がる図書（メンタルヘルス、ソーシャルスキル 等）

書や分類表示の工夫

児童・生徒にとって分かりやすい分類表示の工夫

図書等を配架するに当たっては、児童・生徒にとって、どこにどのような本があるのか分かりやすく分類・表示することが大切です。ここでは、学校で作成した分類表やイラスト等を活用した事例を紹介します。

■知的障害特別支援学校の例■

外部専門家の助言を受け、日本十進分類法（図書分類法）を参考に、校内用の分類表を作成しました。絵本は、著者名の頭文字を五十音順に並べています。



分類項目は、イラストで分かりやすく表示



絵本は、文字から連想するイラストも表示



■知的障害特別支援学校の例■

美術専攻の大学生の協力を得て、図書の分類表示のイラストを作成しました。イラストに加えて、色分けの表示もあり、実態に応じて本の種類を見分けられるようにしています。



「社会」は黄色